

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かたち

テーマを設定する

遊びを通して楽しみながら、絵合わせパズルや積み木などを使用し、形を認識するだけでなく、手先の器用さや集中力も高め、「かたち」への理解を深めることに期待する。

活動 かたちの認識

絵合わせの意味を理解し、完成した喜びを体験する

活動スケジュール

3歳児クラス

日にち	令和7年4月11日	
時 間	30	分
参加人数	15	人

環境をデザインする

●準備した物 花、動物、昆虫の絵合わせカード

探究活動を実践する

●活動内容

1枚の絵になるように並べる

どんな絵が完成するかを想像する

●子どもたちの様子

「お名前を呼ばれたらどうする？」という問いかけに「大きな声でお返事するよ！」と声が返ってきた。大きなカードでの絵合わせでは、完成したカードをどう持てばみんなに見えるかを考え、向きや持ち方を工夫する姿があった。「先生！見て見て！ぱんだ！」「ダンゴムシ！」など、できあがった絵をうれしそうに見せる声が飛び交い、友達同士でも「たんぼじゃない？」「ひまわり？」と会話をしながら夢中になって楽しむ姿がみられた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

絵合わせを進める中で、「こっちはだんごむしだよ」「しってる！」と友達同士で情報を共有し、気づきの喜びを分かち合っていました。また、夢中になることで新たな発見を求める姿も見られ、集団の中で個々が考える時間の重要性を感じました。

講師より

絵合わせでは、形が合わさって一つの絵ができあがることを楽しみながら、「これ何の形かな？」と想像したり、形の違いに気づいたりする姿が見られた。友達と「〇〇じゃない？」「見たことある！」と楽しそうにやりとりする中で、形への興味がどんどん広がっているように感じた。完成した絵をうれしそうに見せ合う姿からは、活動の楽しさや、「やってみたい」という気持ちも伝わり、形に親しみながら、見たり比べたりする経験を大切にしていきたい。

テーマ： かたち

テーマを設定する

具体的なものや身近な事柄を通して生活の中で感じ取ったものを活かす必要があるため、「かたち」をテーマにして様々な形の概念や表現を理解し深めることに期待する。

活動 大きさの比較と形の構成

大きさの違いに気づき、「大きい」「小さい」の言葉の理解を深める

環境をデザインする

- 準備した物 タングラムパズル、タスクブック

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和7年4月11日	
時 間	30	分
参加人数	13	人

探究活動を実践する

●活動内容

事物を見て「大きい」「小さい」の比較をする

名前と形を考える

自由な発想で形作りをする

●子どもたちの様子

三種類の丸を見せると、「大きい」「小さい」と違いをよく見ながら言葉にしていた。「中くらい」という声も聞かれ、大きさをただ比べるだけでなく、間の大きさにも目を向けている様子が見られた。「大きい丸を小さい丸に重ねるとどうなるかな?」と問いかけると、「紫になる」「隠れちゃう」と想像し、実際に重ねてみると興味津々で見入る姿があった。タングラムパズルでは、パーツの大きさを意識しながら「ここは大きいの!」「ここは小さいの!」と考えて並べ、できあがると「できた!」と嬉しそうな表情を見せていた。同じ形でもひっくり返さないとぴったり合わないパーツも工夫して合わせようとする姿からは、成長が感じられた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

「小さい」「大きい」といった言葉をボードを見ながら使い、様々な形や色のパーツを探してパズルを完成させた。特に「ひっくり返す」という言葉と方法に気づいたときには、次々に形を完成させようとする姿が見られた。このプログラムを通じて、子どもたちは自分たちの手で形を変える楽しさを体験し、さまざまな方法でパーツを組み合わせることで創造性が広がったように感じた。

講師より

丸を比べて「大きい」「小さい」「中くらい」と言葉にする姿があり、形の大きさを見比べて捉える力が育っていると感じた。重ねたときの変化にも注目し、「隠れた」「色が変わった」といった気づきも見られた。タングラムでは、パーツを組み合わせながら「ここかな?」「こうしたら合う!」と工夫する姿があり、形を構成する力が育ってきているように感じた。比べたり並べたりする経験を通して、形や大きさへの興味が広がっていくようにしていきたい。

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

テーマを設定する

数に対する興味関心を育み、基本的な数の概念を理解し、具体的な事物と数に対応させ、数への理解を深めることに期待する。

活動 数唱

数の変化を楽しみながら、数への興味関心を高める

環境をデザインする

●準備した物 タイル

活動スケジュール

5歳児クラス

日にち	令和7年4月11日	
時 間	45	分
参加人数	13	人

探究活動を実践する

●活動内容

物の数を数えてみる

数のゲームを楽しむ

●子どもたちの様子

「絵を見て指サインできるかな？」という問いかけには、すぐに絵を見ながら指で数える姿が見られ「できた！」という嬉しそうな声とともに、自信に満ちた表情を見せていた。「どうしたら数えやすくなるかな？」という問いかけには、色カードをみんなで並べ替えて考える姿があった。5個のタイルを使って「5はいくつといくつ？」とクイズ形式で問いかけると、子どもたちはゲームのように楽しみながら、一人ひとりがタイルを手で動かして答えを考えていた。正解すると、みんなで拍手をして喜び合う姿が見られた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

鳥は「羽」、長い物は「本」と物によって数え方が変わることも最初は「なんで？」と不思議そうにしている児もいたが、数への理解が深まると楽しくなってきた様子だった。普段の生活中や遊び中でも数について意識できる機会を作っていきたい。

講師より

数を唱えたり、指や手拍子で表したりしながら、数の順序を意識して楽しそうに取り組む姿が見られた。絵やカードを使って数を数える中で、数と物のつながりを感じ取っているようだった。クイズ形式では、「○と○で5！」と嬉しそうに答える姿もあり、遊びの中で数への興味がふくらんでいることが感じられた。楽しいやりとりや具体物を通して、数の感覚や構成の理解が深まるようにしていきたい。